

●座談会●短大の教育実践を展望する

出席者 伊藤 祐子
 亀谷 和史
 神田 英雄
〈司 会〉 秋野 勝紀

—— 短大は今日までの高等教育大衆化の、いわば先端を担ってきています。これからの短大を見通すと、教育の役割は一層重要になると思われまます。きょうは、そのようなことを視野に入れて短大教育実践のあり方を展望したく思い、保育科（または幼児教育科）所属の方に集まっていたくださいます。

た職業教育であるとともに特別な技術というよりは、人間とかかわる者としての教養を必要とされているため、短大教育の典型と見てよいのではないかと思います。それぞれ実践を語っていただきながら、短大の教育実践の可能性を見つけ出せたら、と思います。まずは自己紹介から。

伊藤 私どもの短大は、岐阜県関市にあります。キリスト教主義を建学の精神としており、五学科一千人余りの学生です。北陸や近県からの学生が四〇％でしょうか。私の担当科目は、保育原理、ゼミ、実習などです。

神田 僕の勤務する短大は、名短めいたんと言われていますが、女子だけ三学科一千人の学生です。名古屋の隣の豊明市にあり、ほとんどが自宅から通っています。専攻が発達心理学ですから、発達心理学、乳幼児の心理学、障害児保育の科目を担当しています。

亀谷 僕は日本福祉大の女子短大部で、赴任してから六年目です。担当科目は保育論、教育原理、教養ゼミ、保育基礎研究ゼミ、実習です。

学生の通学でみますと、六〇％ぐらいの学生が下宿や寮で、短大としては自宅外が多いほうです。主として静岡県から西が多いものの全国から来ています。名古屋から五十分ほどに位置しており、三重県や岐阜県から電車で二時間以上もかけて通っている学生もいます。

大学への導入としての合宿・交わりと目標づくり

——もうじき一年生を迎えますが、大学生活への導入としての合宿をやる場合もあると聞いていますが、どのようなものなのでしょうか。

神田 講義が始まると同時ぐらいに、ホテルの規模からちやうど貸し切りになるような所で、二泊でやっています。

ねらいは大学生活に対するオリエンテーション、学生同士そして教師と学生の仲間づくり。卒業生を招いて保育の道への歩みを語ってもらったこともありましたが、一年からのゼミをするので、二十人の学生と担当教師の時間もあります。今年はそのれが五時間ぐらいあるんです。最初に学生と仲良くやれるとゼミが軌道に乗るし、いろいろ活動を工夫します。一週間に一回のゼミだけでは、お互いになかなか分からないからね。

二泊なので行く前はおつくうがる学生もいるようだけど、合宿を通していつきに友達になるというわけです。その友達関係が二年間続く場合もある……。

亀谷 随分前にはキャンプをやっていたそうだし、僕が赴任したときには、春季セミナーといってゼミの三十人ごとに、大学の側が夏に海水浴場になるのでその民宿で二泊しました。各ゼミ同時に実施するんですが、内容など全てゼミの独自に委ね

られていました。

神田 まったくゼミごとで別々な行動をしていたわけですか。

亀谷 そうなんです。入学間もない学生が、自分たちで企画して、バーベキューやファイヤーなどの運営もするわけです。

四年前からはオリエンテーション合宿として、名短のように大学とは隔たったところのホテルで全員一緒にやる方式に変えました。一泊で。

変えた理由は、活動内容や運営の力というか、僕らの期待するものとずれが大きくなったということでしょうか。先輩から大学の文化として伝達されていくことに期待できなくなったこともあって、以前の方法だと彼らの高校までの学校文化を反映したものになってしまいうし、もちろん僕らのかかわり方のこともあるでしょうし。この合宿は大学への導入であり、その後に影響をもちますからね。

内容は、子育てや性といった関心のもてそうな問題を通して生きることを考える機会をつくる、保育を学ぶということへつながるレクリエーション（歌ったり集団での遊び）をしながら体も心ものびやかになつてもらおう、といったものになっています。それぞれ外部からの専門家に協力していただいています。以前からみたら保育を学ぶことを意識化できるように工夫していますが、それとてゆるやかなものでしょう。それにゼミごとの交流会も夜の一コマあり、ここで初めて顔を合わせて知りあうん

です。僕の場合六、七人ずつの部屋割を学生に委ねているんですが、これがその後の班になっていきますね。フイーリングで相性が分かるようですね。

一年生のゼミ・入門期の教育として

—— 短大としては開講しているところは少ないのですが、一年生のゼミをやっていましたら、その様子をお話していただけますか。

亀谷 ゼミといっても今は三十五人です。講義が学年単位二百十人ぐらいでこれよりサイズの小さい実技科目もあります。ゼミが授業の最小単位というわけです。

伊藤 私の所はゼミはしていませんが、講義規模が四十人です。学生の生活の拠点になり、つながりもできています。

亀谷 少人数ですね。ゼミのねらいの一部を達成できますね。

僕の所では教養ゼミとっております。僕は、テキストを読むことを中心に進めています。テキストといっても難しいものはありません。何年かの経験を経て分かったことは、彼らの関心のもてる学習内容をいかにするか、ということの大事さです。関心にフィットすると彼らは力を発揮しますからね。

たとえば彼らの多くは恋愛に関心がありますね。それは人間理解のことであり、コミュニケーションのことであり、性のこ

とを考えることでもあるわけです。それに福祉にも関心があります。

そのようなことを踏まえて七冊ほど用意したテキストのなかから学生に選ばせたわけです。学生は、村瀬幸浩さんの『恋人とつくる時間（とき）』、アグネスさんの『幸せなのになぜ涙がでるの』、斎藤茂男さんの『命輝く日のために』を選んだので、三冊をやったわけです。

一年間としては多いんですが、意欲的にやりました。班ごとに報告を分担された分を、ゼミの前日までに内容の概略と疑問や意見を添えたものを研究室に提出してもらうんですが、どの班も確実にやりました。準備のために集まってワイワイガヤガヤやるのが楽しいようだった。当日それを僕がプリントにして配布し、討論が可能なようにします。授業では分担の班からの報告があり、それをもとに班ごとの討論にします。討論の時間をだいたい三十分ぐらいとって、僕はおもしろそうな話の班へ加わります。その後討論の様子をどこかの班に報告してもらいます。また班ごとの討論記録は提出してもらって、全班のものを次の時間までに僕が整理して印刷して学生に配布します。前週そのプリントは授業の冒頭に話題にして、みんなで内容を共有するわけです。一年間のプリントでさうとう分厚い冊子になります。

このようなことは高校までと違った学び方ですね。それ



かめたに・かずふみ
日本福祉大学女子短期大学部・専攻は教育学
1958年生まれ

までは学ぶことで充足したという体験が乏しい、学ぶことはさまざまな知識や経験が不足している自分にむき合うことだったんですね。一方、今は、特別難しいことではない手が届くようなことを、テーマにそって知識を増やし自分の考えを持つ、それを他人とつぎ合わせて追求し、共有しやすい内容を楽しく共同で学びながら、自分の内面と向き合うわけです。青年期には、自分づくりとして必要だと思います。僕としては青年女子の教養とは、ということをいつも問い続けているつもりです。

神田 四、五年前までは、ゼミがそれぞれのテーマと内容でやっていました。今は二年生の卒業研究に連動させる意味もあって、

一年生の時にテーマを自分で見つけて一本の論文を書くことにしているんです。テーマを見つける、自分で調べる、論旨を組み立てて書く、という体験をします。ゼミというまとまりはあるけれど、課題は個人作業なんです。でもこれは、高校までの学習からの切り替え体験でもあり、二年生のときの卒業論文作成のためのウォーミングアップでもあるわけです。

テーマ決定が一番大変ですね……。一年生の時ぐらい保育と関係のないことをやってほしいと思っているし。様々なテーマがあるんで、それが論文としてまとめあげられるものなのかを吟味することにつきあうので精いっぱいになります。たとえば「なぜ駐車禁止にするか」といった、論文にするには苦しいものも出ますし、ユニークなものとしては「相撲の土俵になぜ女性が上がっていけないか」といったものがありますが、全体としては環境問題や老人問題や子ども問題が多いですね。

取り組む過程でも様々なことがあります。自宅生ということもあってか、喫茶店に入ったことのない人もいますから。資料として必要な機関を訪ねて、見知らぬ人にインタビューしなきゃいけないのに、出来ないって言うので一緒につきあうことだつてありますよ。

一年のゼミは、学習が大学生として研究的になるということも重要ですが、他にいくつかのねらいがあります。まず学生が大学生活を創る主体者であるということ、その主体形成をする



かんだ・ひでお
名古屋短期大学・専攻は発達心理学
1953年生まれ

ということです。例えば大学祭がありますがそれに自分たちで企画を創っていけるとか、課外活動も含めて自主的な活動をやっていけるように援助をします。これが大学の活気を創っていきますよね。短大だと二年間だから学生間で文化が継承されていきますからね。

それから僕としては、卒業後の人生の選択について考える場にしよう、と考えています。保育者になりたい意欲はもっているんだけど、職場のことがまったく分からないんです。これまでの先輩の事例をもとに、職場と働きがいについて考えられるように、結果として職場の選択力になればとおもっています。

学生のこと・短大生の特徴

神田 また、多くの学生は夏休み明けから変わるね。おしゃれをすることも含めて、いろいろな意味で大学生らしくなる。それまでの入学後すぐの前期は、「大学導入期」としてとくにきめ細かな配慮が必要になる。学生のなかには「何でこんなに友達つれないんだろう」「何で友達が怖いんだろう」とも見える人がいて気になる。そんなわけで、悩みを抱えている学生へ対応できるようにしたり、学生の仲間どうし相談しあえるような条件づくりという意味も込めて、つながりづくりを視野にいられてレクリエーションなどもやりますよ。そんなわけでゼミの指導のなかにいわゆる担任的側面がありますね。

自宅生の場合、大学生としての転換がしづらい面がある。下宿をするようになると、いやがおうでも高校時代との生活が切れますよね。うちの学生の場合は全然切れないのね。高校を引きずって、テレビ番組も同じものを見ているし、生活構造に変化がない。大学が、そんな雰囲気か底流になっているように見える。

—— 学生のことが出たところで話を移していきますよか。

伊藤 自宅生でない場合、自立的な生活をつくるということが大きな課題になりますね。自分で炊事や洗濯などを、寮

で対人関係をうまくするといったセルフマネジメントが問われるわけです。人間関係がこじれるといった悩みに対応でき、彼らの大人への成長となりうる体験にしてやりたいと思っています。とかく匿名的な関係で終わりがちですが、親身になって名前を呼びパーソナルな関係をつくることによって「教師に受け止められている」と、信頼感がつくられると心を開きますね。

亀谷 僕の所は四大と同じキャンパスで生活していて、サークルも一緒にやっています。異性も含めた様々な個性の学生との交流のなかでの学習や活動から生まれる、いわゆる大学文化のなかでの生活と言っているでしょう。しかしゆるやかな四大の生活に対して、短大は過密なカリキュラムのため波長の違いがあります。

四大と一緒にですから、四月中旬頃からでしょうか、サークルなどを通していわゆる大人としての今時の学生文化が一気に入るんですね。確かにこれは高校とは大転換です。それに自主活動面でも短大だけで完結しなくてよいわけですね。サークルでも大学祭でも、卒業まで後輩としてアシスタント的立場で終了するわけです。

神田 サークルで一人前に自分を発揮するより、アシスタント的立場になるというのは、短大生の構えとしては分かるような気がする。よく言われていることとして四大生に比べて「かわいい」ということにも結びつくことだと思う。質問にくる、冗

談への反応がある、うなづく、といった教師への密着型のタイプが多い。そんなコミュニケーションだとこつちも何かやってやらなくちゃ、という気になつてしまふ。

伊藤 とくに保育を学ぶ学生に多い、ということでもありませんね。

神田 また別なことでは、常識的なことを維持しながら行動しようとする。疑問を持ったり反発したりして自分のものにするということをしなない。だから「集団行動を乱すのはよくない」といったことが素直に入っていく。「乱す人はどんなにきつく叱つてもいい」といったことで割り切きつちゃう。一度集団とはなにかと考えてみて自分なりに再構築するのは難しいようだ。その点四大の四年間は、何はともあれモラトリアムになりうる。進路をさし迫って考えなくてよい。結果として教師とも距離をおいて自分の世界をつくる作業が出る。ところが短大は学校の流れのなかで続いていてあわただしい。入学してすぐ就職ですから、つい「これは仕事に役立つか」といった見方をする。そんなこともあって、実践に直接結びつかない理念や抽象レベルで考えることはしないの



ではないか。

こういったことから短大のあり方を考えてみると、自分の青年期を二年間に限定して学んで就職したいんだ、という志向性を持った学生たち。それを選択した学生たちなんだということです。そんな考えと構えを持った学生にどう教育するかということ。四大の二分の一ではないんだ。四大がいっぱいあるから短大はいらぬということではない。早く就職したい学生への教育ですね。当り前のことなだけで、二年に限定しているところに短大の独自性がある。

講義のこと・学生の知的関心に点火する

—— これまでとかく話題になる大学教育とは違って、かなり丁寧な教育をしていると感じる話が続きました。講義のことになりますが、授業改善の本質的な取り組みとともに、おしゃべり防止として座席指定などの対策も増えていると聞きます。

伊藤 講義規模は四十人ですが、出席は取りますし、みんな顔見知りでもあります。私は保育原理ですから、子育てや保育について、身近なものとしてとらえたり現状を認識のためもあって、新聞の切抜きをさせています。それを毎回の授業の始まり十五分ほどを使って、グループごとにコメントも加えて報告させます。人の前でしゃべる、聞く、討論をするといった体験に



いとう・ゆうこ
中部女子短期大学・専攻は保育学
1941年生まれ

なればという意味も含んでいます。学生の報告のテーマと内容は自由ですが、私の講義でもそれと結びつくようになっていく工夫もします。一方的にならず対話的にと思っており、四十人だから学生の反応を確かめながら進められます。

講義内容の工夫としては、初期の頃は保育や子どものことを具体的でイメージとして分かるようにと、ビデオを見せません。見終わってからミニレポートを課しますが、だんだん専門的な点に気づいていく様子が分かります。

神田 講義規模は百人が原則ですが、僕は一学年全員を一緒にやっているので二百五十人ぐらい。

僕が力を入れているのは、講義の資料を毎回つくっているこ

と。保存して就職してからも使いたくなるようなものを、と思つてつくっています。

講義の進め方は、あらかじめシナリオというか流れを考えるよね。導入の話題は、山場の時はどんな実践例を使うか、息抜きをどの辺に持つていくか、といったことを。これがぼつちり決まればうまうまいったと実感できる。ただ自分のペースだけでは一方的なので、学生の知的関心をいつも旺盛に呼び起こし、講義への参加を促すことを考えています。

講義は長編の続きものではなく、短編完結積み上げ型とでもいうもの。だからその日のテーマを意識させる。それも全体のプログラムの流れでどう位置づけるかを意識させながら。配布する資料にはその日のテーマにそつた問題を掲げている。それを考えながら講義を聞き、終わつたら自分で回答を出せればいいわけ。学生にしたらその講義を獲得した、という自己評価になるわけです。

うるさくさせないことの工夫も独自に必要なことになる。一年の初期は静かだね。ある時期からうるさくなるので、その時期を逃さずこちらのペースを維持できるように気をつける。あの手この手と工夫もするけれど、僕はうるさかつたら講義をしないことにしている。見切り発車をせずに静かになるまで待つ。そんな習慣づけというか、僕のスタイルを示すことも工夫の一つになるかね。

その日の講義がうまくいったかどうかは、学生の反応にも現れる。講義が終わつてすぐ学生がいなくなるときは、自己評価としてよくないとき。メモを取りきれずに終わつても書いていたり質問をしにきたり、余韻が残るときは、学生は知的力を動員して聞いていたと思うし、自分でも充実感を感じるね。

二年生のゼミ・知の共同作業として

——短大は受け入れの一年、終了の一年でもありますが、学生として研究的な学習の場になるゼミについての話をお願いします。伊藤 二年のゼミは、選択ということもあり八〇%ぐらいの受講でしょうか。一ゼミ十人ぐらいです。私の場合は「子ども理解と保育の指導」というテーマです。学生の希望に保育現場を知りたいということが多くありますので、現場の実際を中心に学ぶということになります。附属幼稚園で子どもと遊んで発見したことを討論したり、その体験を、並行して学ぶテキストとからめて対象化・理論化の作業をします。最終的には分担して論文にまとめあげます。

神田 ゼミは学生にとつて生活の拠点であり、テーマにそつて研究的に学ぶ場であり、二年生ではさらに卒業研究が加わつてそれがメインになります。論文は個人論文ではありません。どのような仕組みになっているかという、卒業研究に一元化し

ています。一年の終了の頃それぞれにやりたいテーマを出させて、共通の者が数人でグループをつくり一本五十枚以上の論文を書くというわけです。そのグループを一人の教師で三つぐらい指導を受け持つ。二十人ぐらいの学生を担当する。

火曜日の午後がゼミの時間です。二コマですから、三グループを工面して指導します。後期になると一日ゼミに当てています。保育の現場へでたり、たっぷり時間が取れるようにしています。

最後に学科全体で卒論の発表会をやります。発表会では一グループ十枚程度にまとめたもので論文集をつくり、それをもとにやります。全体会でいくつかのグループが発表し、後に分科会をします。二年生だけでなく一年生も参加し、教師はシビアな質疑をするようになってきたね。

伊藤 私の所のゼミは、最終的には一人二十枚ぐらいの論文になるように指導しています。ゼミの選択は教師がテーマを明示して希望を募ります。上限が十人なのでオーバーした場合は、第二希望へ回ってもらっています。

亀谷 ゼミの選択ですが僕の所も同じですね。教員の決めたテーマの概要を書いた冊子で案内をし、それで希望を募ります。十四ゼミほどで、やはり二〜三集中するゼミがあります。学生が書いた希望票を資料として教員がセレクトします。入れなかった人は欠員のある第二希望にまわります。

ゼミの内容は、中には保育に直接結びつかないものもありま

す。進め方もおおよそ文献を進めるようですが、実技系の場合は実技で、最後も演奏や制作で終了するようです。

僕の場合は「出産・育児・乳児保育」というテーマなので、ビデオを見たり乳児保育の現場を見たり、子育て体験を親に語ってもらったりして共通理解をつくります。後期から文献を読みます。文献といっても、なかには最近でている育児漫画もあつかいます。グループごとにテーマを決めて、卒業研究の論文作成に取り組んでいきます。論文は、分担して一人二十〜三十枚をめどに書かせています。書き上げたものは印刷して製本をして各自みんなの論文を持てるようにします。

短大教師として・求められる教育実践への構え

—— 教育実践を語っていただきましたが、最後に短大教員の

独自性というものをどう考えたらいいか、というところで

伊藤 学生には教師と



しての顔で向かわなければ、と日頃から考えています。青年期ですが、学生との関係が確立しなければ教育が進んでいきません。そこにけっこう力を注ぎますが、保育という人間を対象にする学問です。ですから自分の研究とは矛盾はしません。学外で学ぶ実習指導などを通して、社会的に大人に向かつていく人へ立ち会うといった思いすらしています。

亀谷 たしかに自分の専

攻からして、学生の問題意識や疑問に触発されてそこから組み立てていくのも、研究として意味があると思っています。僕の場合青年期教育も研究テーマに入れていますが、あまり時間を取ると中心の研究に時間を取れなくなるというジレンマを持つことも確かです。ただ学生には、教員として確信を持つてのぞみ、学生の様々な要求には親切に応えたいとも思っています。論文を中心とした研究業績を求められ、教育への評価はされないのでしょうかでも教育実践は軽視しがちになる。だから時には共同で教育を考えていくことが重要であると思いますが、



このことはとても難しい。これは大衆化された大学像を描き取れていないこともあるし、したがってシステムも出きていない現状を反映しているのではないかと思います。

神田 短大教師は、研究力量の他に短大教育に興味を見つけて教育をする教師としてのアイデンティティを持つてなければ、と思いません。それなしでは短大の特殊性に見合った教育をしていけない。僕は発達心理だから関心はあるんですが、教育と距離のある専門分野で研究力量が優れていても教育者としてのアイデンティティの確立に苦しんでいる人も多いと思う。自分のポジションに対する認識という問題は、短大の教師にとつて重要に思います。

—— 保育料の教育実践としてふれなければならない実習のことなどまだあるのですが、残念ながら時間がきました。短大の教育を考えていくための様々な視点と具体例を出していただきました。この討論が教育を共同で考え、青年期の教育実践を創造していくヒントになれば幸いです。きょうはどうもありがとうございました。

一九九四年四月五日 東海高等教育研究所にて

記録・構成・写真 秋野勝紀